資料１

施策の概要と指標について

<目　次>

各項目の説明---------- 2
【A】子育て・教育・生涯学習分野-------- 9
【B】福祉分野---------- 19
【C】健康・スポーツ分野---------- 27
【D】防災・安全・環境・エネルギー分野-- 33
【E】空間とコミュニティのデザイン分野-- 43
【F】文化・エンタテイメント分野------- 51
【G】産業振興分野---------- 57

令和8年10月19日
渋谷区経営企画部
経営企画課

政策名称　第2回、第4回検討委員会の議題

01 政策の目的（目指すまちの姿）

- 第4回検討委員会の議題

02 区の現状

- 第3回検討委員会の議題





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
第5回検討委員会の議題						

03 施策と概要

1	施策名称	・概要 ・概要 ・概要
2	施策名称	・概要 ・概要 ・概要
3	施策名称	・概要 ・概要 ・概要 ・概要
4	施策名称	・概要 ・概要 ・概要
5	施策名称	・概要 ・概要 ・概要 ・概要 ・概要

第4回
検討委員会の
議題

第5回
検討委員会の
議題

成果指標例

指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
		R7	R13	R18	
第5回検討委員会の議題					

各項目の説明（状態を表す主な指標例）

［状態を表す主な指標例とは］

政策の対象（地域・区民、事業者等）の状態を定量的に示す指標のうち、主なものを例として記載しています。必ずしも区の関与で改善できる指標ではありません。

区民や地域が困っている状態が続いているのか・解消したのか等、施策の必要性を確認するために用います。

例えば、物価高騰という状態が続いている場合、区の施策だけでは解決しませんが、「物価高騰で困っている区民を支える施策は必要か（施策の必要性）」を確認するために用います。

［状態指標の例］ 政策8　健康推進

◆政策の対象：全ての区民

◆政策の目的：

区民が心身の健康づくりに取り組み、生涯にわたり健康で自分らしく暮らせるまち。

身近な医療やケアの体制が整い、いざというときも安心して暮らし続けられるまち。

◆全ての区民にとって、「どのような状態が“ ◆政策の目的（目指すまちの姿）”のような状態であるかを測る数値」や「区の現状に書かれている問題を表す数値」が状態指標の候補となります。

〇生涯にわたり健康　⇒　健康寿命

〇区民が心身の健康づくりに取り組む　⇒　生活習慣病保有率

〇疾病の早期発見・早期治療につなげるための取組が求められている

⇒　がん死亡率

※継続的に取得できる数値を指標とすることを前提としています。

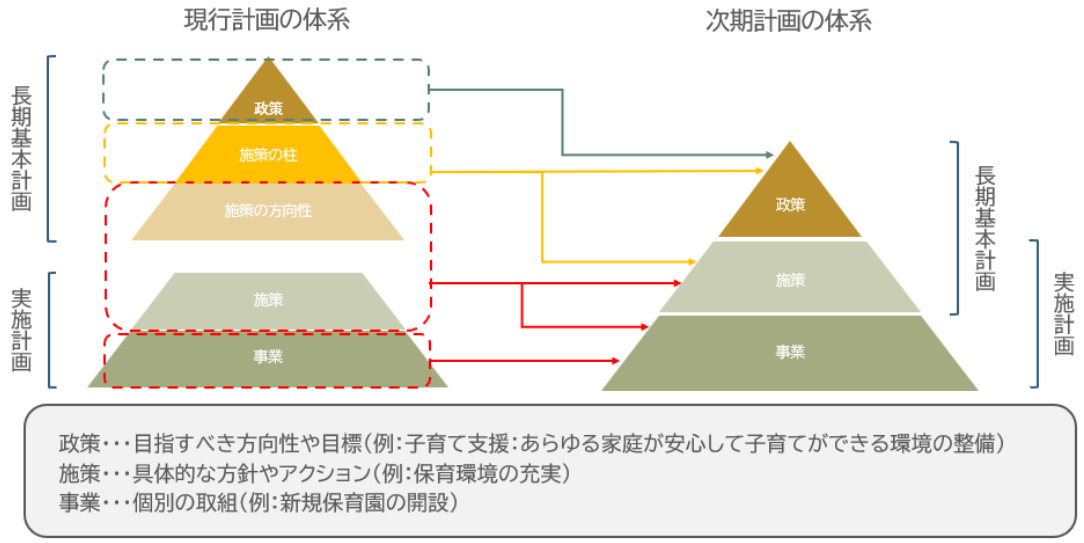
状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
健康寿命（男性）	歳	83.4	83.62	83.52	―	↑
健康寿命（女性）	歳	86.51	86.5	86.36	―	↑
生活習慣病保有率	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↓
がん死亡率（人口10万対）	人	225.2	180.9	―	―	↓

各項目の説明（施策と概要）

第4回検討委員会資料より

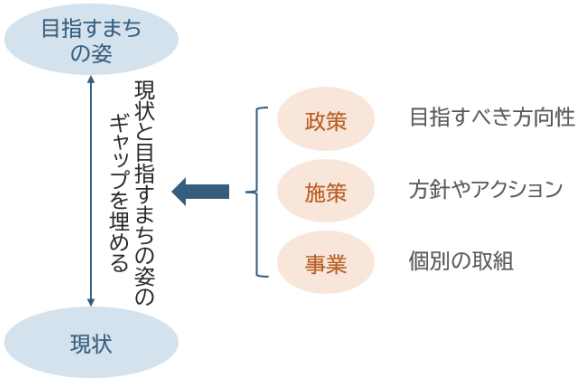
1 次期計画の策定方針について



政策・・・目指すべき方向性や目標（例：子育て支援：あらゆる家庭が安心して子育てができる環境の整備）
施策・・・具体的な方針やアクション（例：保育環境の充実）
事業・・・個別の取組（例：新規保育園の開設）

1

3 各項目の関係性について



- 目指すまちの姿と現状のギャップを埋めるために政策、施策、事業を実施するという関係が基本となります。
- 計画書に掲載する「目指すまちの姿」は、1政策につき、3項目まで（1項目あたり2行程度）で簡潔にまとめる予定です。

3

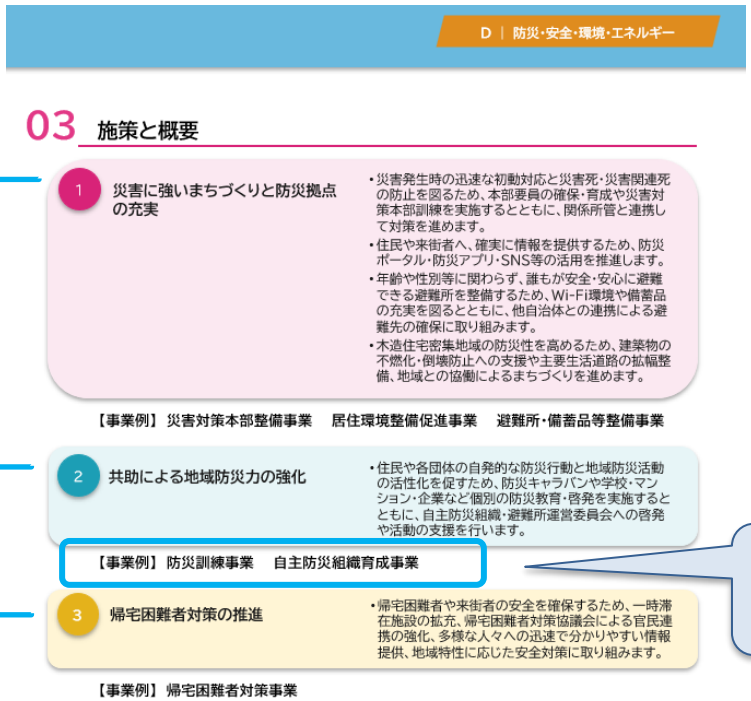
［施策の概要］
施策ごとに、施策の概要を記載し、参考としてその施策に紐づく主な事業を記載しています。
事業単位の詳細は、長期基本計画ではなく、実施計画に掲載します。

各項目の説明（成果指標例）

［成果指標例とは］
施策を実施することによって得られる成果を定量的に測定するための指標。
代表的な事業の成果や複数の事業の成果を総合した成果を設定しています。

［成果指標の例］ 政策10 防災対策
◆施策2：共助による地域防災力の強化
◆事業例：防災訓練事業、自主防災組織育成事業
施策「共助による地域防災力の強化」 の主な事業である「防災訓練事業」の成果として、**「総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」参加者数」**を成果指標として設定。

本資料よりP35より



代表的な事業

どの施策に紐づく指標かを番号で表示

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	主要生活道路沿道の用地買収件数	件	確認中	確認中	確認中	↑
❷	総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」参加者数	人	12,603	確認中	確認中	↑
❷	避難所の収容人数	人	確認中	確認中	確認中	↑
❸	帰宅困難者受入人数	人	44,221	確認中	確認中	↑

政策名称一覧

分　野	番号	次期計画の政策
【A】それぞれの成長を、一生よろこべる街へ。（子育て・教育・生涯学習分野）	1	子育て支援
	2	教育の充実
	3	子ども・若者への支援
	4	生涯活躍の推進
【B】あらゆる人が、自分らしく生きられる街へ。（福祉分野）	5	地域福祉
	6	高齢者福祉
	7	障がい者（児）福祉
【C】思わず身体を動かしたくなる街へ。（健康・スポーツ分野）	8	健康推進
	9	スポーツ振興
【D】人のつながりと意識が未来を守る街へ。（防災・安全・環境・エネルギー分野）	10	防災対策
	11	防犯・安全対策
	12	環境美化・みどりのまちづくり
	13	持続可能な都市の実現
【E】愛せる場所と仲間を、誰もがもてる街へ。（空間とコミュニティのデザイン分野）	14	市街地整備・景観デザイン
	15	地域コミュニティの活性化
	16	道路・交通の整備
【F】あらたな文化を生みつづける街へ。（文化・エンタテイメント分野）	17	渋谷カルチャーの発展・国際発信
	18	文化・芸術の振興と交流の推進
【G】ビジネスの冒険に満ちた街へ。（産業振興分野）	19	イノベーションの創出と経営・就労支援
	20	消費生活の支援
	21	観光振興
	削除	キャリアアップ・就労支援

Ａ　子育て･教育･生涯学習分野

政策1 子育て支援

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●子育てをするすべての人が、安心して子どもを産み育てることができるまち。
●地域や社会とのつながりの中で、希望と喜びを実感しながら子育てできるまち。

02 区の現状

- 世帯の小規模化や共働き世帯の増加等を背景に、妊娠期から子育て期にかけて子育て支援に対するニーズが多様化しています。
- 周囲に頼れる人がいないなど、子育てに関する不安や悩みを相談したいが、相談できる人がいないまま、育児を続ける家庭が存在しています。
- 今後、家庭環境の課題や発達上の課題が複合化するケースの増加が想定されるため、より専門的かつ関係機関が連携した継続支援の重要性が高まる見込みです。
- 子育て家庭が地域と日常的に関わる機会が得にくく、地域との関係が希薄になりやすい状況が見受けられます。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
出生数	人	1,754	1,629	1,623	1,594	−
保育施設等利用児童数(在籍児童数)	人	5,117	4,967	4,829	4,776	−
就学前児童保護者が区の子育て環境・支援に対し「満足」「やや満足」と回答した割合(※)	%	−	75.8	−	−	↑

※ 渋谷区子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査(5年ごとに実施)

03 施策と概要

1 保育環境と保育サービスの充実

- 子どもが安全で質の高い保育を受けられる環境を確保するため、保育施設の管理・指導・助言等、適正な運営を推進します。
- 保護者の多様な就労形態や家庭状況に応じた保育サービスを安定的に受けられるよう、適切な定員管理と受入体制の整備を行います。

【事業例】 保育園管理運営事務　待機児対策事業　保育利用料助成事業

2 妊娠期からの切れ目のない子育て支援の充実

- 妊娠中・子育て中の世帯の孤立を防ぐとともに保護者の不安を解消するため、妊婦面接や乳児家庭全戸訪問など、妊娠期から出産・子育て期まで切れ目なく多様な支援を実施します。
- 妊産婦や母子の生命・健康を守り、子どもの健やかな成長を支えるため、各種健診や育児相談、産後ケア等の母子保健サービスを提供します。

【事業例】 渋谷区子育てネウボラ管理運営事務　母子保健事業　ひとり親家庭等福祉事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	保育施設定員充足率	%	77	80	85	↑
❷	妊婦面接相談率	%	82	90	95	↑
❷	サポートプラン作成数	件	5	200	250	↑

政策2 教育の充実

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●全ての子どもが、一人ひとりの個性や可能性を認められながら、自分に合った学びの場や学び方を選択し、自らの可能性を伸ばすことができるまち。
●学校、家庭、地域、企業、大学等が連携し、社会全体で子どもの学びを支えるまち。

02 区の現状

・就学前プログラムに加え、令和7年度に架け橋プログラムの方針を策定し、就学前から小学校への学びと育ちの連続性の確保を進めています。
・グローバル教育・ICT教育、体力向上・健康教育を推進するとともに、一人一台端末やクラウド環境、教育データを活用しながら、主体性や生きる力を育む個別最適な学びと協働的な学びの充実を図っています。
・探究「シブヤ未来科」を軸に、地域・企業・大学等との連携による探究的な学びを区立小中学校で展開しています。
・不登校やいじめなど教育課題の複雑化・多様化が進む中、学校を核として家庭や地域と協働しながら、一人ひとりに応じた支援の充実が求められています。
・区立小中学校26校(小学校18校、中学校8校)のうち、22校が建替え対象とし、計画的な施設更新を行っています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合	%	―	―	87	88	↑
就学相談実施件数	件	229	185	196	231	―
教育相談実施件数	件	2,126	1,669	1,029	833	―

03 施策と概要

1 就学前教育と幼保小接続の充実

- 「架け橋プログラム」の推進により、就学前から小学校への学びと育ちの連続性を確保し、多様な就学前教育環境を充実します。

【事業例】 学校法人支援事業　私立幼稚園教育振興事業

2 未来を創造する力を育む教育の推進

- 探究的な学びを通じて、主体性や社会貢献意識を育むとともに、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組む力を養います。

【事業例】 研究研修促進事業

3 一人ひとりを大切にする教育の推進

- 健康教育や教育相談体制の充実、関係機関との連携強化を図るとともに、特別な支援を必要とする児童・生徒や不登校児童生徒への支援、多様な学び・居場所の充実を進めます。
- お互いを認め合い尊重し合う心を育むため、人権教育の充実を推進します。

【事業例】 小学校運営事業　中学校運営事業　教育センター運営事業

4 未来の学びを支える環境づくり

- 学校、家庭、地域が連携・協働して子どもの学びと成長を支えるため、地域とともにある学校づくりを推進します。
- グローバル教育やICT教育の充実に向け、AI等も活用しながら、安全・安心で時代に応じた学習環境の整備や多様な教育機会の確保を推進します。

【事業例】 学校図書館運営事業　学校給食事業　区立小中学校ICT教育推進事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
2	「授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっている」と回答する児童生徒の割合	%	85.26	90	92	↑
2 4	タブレットを活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる	%	90.9	95	97	↑
3	「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という設問に「できる、どちらかといえばできる」と回答する児童生徒の割合	%	74.2	80	85	↑

政策3 子ども・若者への支援

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●子ども・若者が将来への希望を持ち、自らの可能性を発揮しながら、自分らしく挑戦できるまち。
●子ども・若者が、必要な支援につながりながら、安心して成長できるまち。

02 区の現状

・子ども・若者を取り巻く環境は、少子化や世帯の小規模化の進行、地域との交流の希薄化等に加え、スマートフォンやSNSといった情報化社会の進展等により、多様化・複雑化しています。
・全国的に子ども・若者がインターネットを介して非行に陥ったり、様々な犯罪や人権侵害に巻き込まれる事例が増加しています。
・社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者や、本来大人が担うと想定される家事や家族の世話等を過度に担うことで、学業や友人関係に影響をきたすヤングケアラー等の存在が確認されています。
・子ども・若者の成長に不可欠な様々な遊びや体験の機会は、家庭の経済状況等によって左右されるため、機会に格差が生じています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
自分は幸せだと思っている青少年の割合	%	62.2	64.1	64.4	64.1	↑
ヤングケアラー（※1）	世帯	―	―	5	4	―
学校内外に相談できる大人がいる児童・生徒の割合（※2）	%	75	74	75	73	↑

※1 総合相談を通じて把握した世帯数
※2 区立学校における児童・学校生活アンケートの集計結果

03 施策と概要

1 子ども・若者の活躍を支える環境づくり

- 子ども・若者が安心して過ごし、健やかに成長できるよう、多様な体験・交流・学びの機会の充実や、安心して過ごせる遊び場や居場所づくりを推進します。
- 子ども・若者の主体性や社会参画意識を育むため、意見表明や主体的な活動の機会を充実するとともに、多様な挑戦や社会参画の機会を創出します。

【事業例】 子ども家庭支援センター事業

2 子どもの権利を尊重し、守り・支える取組の推進

- 子どもや家庭が抱える悩みや課題の早期発見・早期支援を図るため、相談体制の充実を進めるとともに、関係機関や地域と連携し、一人ひとりの状況に応じた支援を実施します。
- 若者を取り巻く実態やニーズを把握するため、実態調査や意見聴取を行うとともに、その結果を踏まえた支援の充実を図ります。

【事業例】 教育センター事業　青少年海外派遣研修事業　青少年健全育成事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	子どもの意見を反映して実施・改善した取組数	件	－	5	10	↑
❶	プレーパークの年間利用者数	人	54,100	55,000	56,000	―
❷	児童育成支援拠点事業利用人数	人	278	480	570	↑

政策4 生涯活躍の推進

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●区民一人ひとりが、自らの関心やライフステージに応じて学び、生涯を通じて成長し続けることができるまち。
●学びを通じて人と人とのつながりが広がり、その輪が地域や社会を豊かにするまち。

02 区の現状

- ライフスタイルや価値観の多様化に伴い生涯学習ニーズは高まっている一方、学習機会に参加しにくい層や、学びが継続的な活動につながっていない層が存在しています。
- 民間企業、NPO、大学等との連携により学習機会は拡充しているものの、参加者層、施設利用者層の偏りがあります。また、得た学びや、これまでの豊富なキャリア・特技を地域の社会参加や実践的な活動へとつなげる機会が少なく、学びと活躍の循環が十分に図られていません。
- 学習していない理由として、必要性を感じない、きっかけがない、時間がないといった声もあり、参加動機の創出や参加しやすい環境づくりが求められています。
- 図書館は、子どもを取り巻く学習・余暇環境の多様化やデジタルメディアの普及などにより、来館に依らない利用ニーズが高まっており、多様な形で読書に触れられる環境づくりが求められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
社会教育施設登録団体数	団体	974	1,189	884	1,010	↑
生涯学習が充実していると感じる人の割合(※)	%	—	—	63.6	67.8	↑
図書館利用率	%	49.9	48.4	48.1	46.9	↑

※ 渋谷区区民意識調査

03 施策と概要

1 多様な活躍機会の充実

- これまでの仕事や人生経験で培ったスキルや特技を生かし、地域活動や社会参加、発表・発信を行う機会の充実を図ります。
- 新たな学びや日々の活動への参加を促すとともに、そこで得た成果や経験を、次の活躍へとつなげる環境づくりを推進します。

【事業例】 渋谷ハチコウ大学　渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ　郷土博物館・文学館運営事業

2 読書・学習環境の充実

- 年齢やライフスタイルにかかわらず、生涯を通じて学び続けられるよう、企業や大学、NPO等との多様な連携による質の高い学習機会の充実を図ります。
- 子どもが身近に読書に親しめるよう、図書館行事やおはなし会などの読書活動を推進するとともに、「しぶやおすすめの本50」をはじめとした図書や電子図書館コンテンツの充実を図ります。
- 誰もが利用しやすい図書館を実現するため、図書館システムの機能向上や利用者サービスの充実を図るとともに、快適な利用環境を整備します。

【事業例】 中央図書館運営事業　図書館電算システム管理事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	生涯学習関連事業参加者数（ハチコウ大学、社会教育館講座、シブカツ、スマホ講座等）	人	25,827	28,000	30,000	↑
❶	デジタル活用支援員によるスマホサロンへの参加者数	人	5,291	調整中	調整中	↑
❷	図書貸出冊数	冊	1,692,242	1,900,000	2,000,000	↑

B　福祉分野

政策5 地域福祉

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●区民一人ひとりが、地域の中でつながりを持ち、互いに支え合いながら安心して暮らせるまち。
●誰もが必要な支援につながり、自分らしく安心して暮らせるまち。

02 区の現状

・高齢、障がい、疾病、生活困窮、ひきこもりなど、複数の課題が重なり合う複雑・複合ケースが増加しており、既存の制度だけでは対応が困難な事例が増えています。
・地域とのつながりの希薄化により、孤立や生活上の困難が表面化しにくく、必要な支援につながらないまま課題が深刻化・長期化するケースがあります。
・福祉ニーズが高まる一方で、地域活動や介護サービスを支える担い手・人材の確保が課題となっています。
・首都直下地震等の大規模災害に備え、一人暮らし高齢者や要介護高齢者等への避難支援体制の充実が求められている。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
地域福祉コーディネーターによる支援が必要なケース数	回	―	19	26	24	―
生活困窮者自立相談支援事業における新規相談受付件数	件	1,059	770	755	927	↑
生活保護受給世帯数	世帯	2,606	2,528	2,489	2,432	↓
避難行動要支援者名簿登録者数	人	確認中	確認中	確認中	確認中	―

03 施策と概要

1 支えあうネットワークの整備

- 企業、NPO、ボランティアなど多様な主体との交流・協働や、多様性への理解の促進を通じて、地域における支えあいの基盤を強化します。
- 複雑・複合的な課題を抱える人や地域とのつながりが希薄な人を適切な支援につなげるため、関係機関が連携した包括的な相談支援体制の充実とアウトリーチを推進します。
- 誰もが地域とのつながりを持ち、自分らしく活躍できる社会を実現するため、地域活動や居場所づくり、就労体験等への参加支援を推進します。
- 支援を必要とする人を支える家族や地域の支援者が安心して活動できるよう、相談機会の充実や関係機関との連携を通じて、支援者への支援を推進します。

【事業例】 心身障害者(児)社会参加事業　作業所運営事業　ボランティアセンター運営費助成事業

2 福祉人材の確保・育成・定着

- 福祉サービスを支える人材を確保・育成・定着するため、資格取得支援や研修、就職マッチング、住居確保支援等を充実し、多様な福祉人材の確保と専門性の向上を推進します。
- 持続可能なサービス提供体制を確保するため、介護現場におけるDXの推進や多様な人材の活用を通じて、生産性向上や業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境づくりを推進します。

【事業例】 介護職員研修受講料補助事業　介護福祉士資格取得費用補助事業　介護職員宿舎借り上げ支援事業

3 生活困窮者の自立支援

- 生活に困窮する人が健康で文化的な最低限度の生活を維持できるよう、困窮の状況に応じた必要な支援を行い、自立した生活に向けた支援を推進します。
- 生活困窮者を早期に支援につなげるため、相談支援体制の充実を図るとともに、官民の関係機関との連携を強化し、一人ひとりに寄り添った伴走型の支援を推進します。

【事業例】 生活保護事業　生活困窮者自立支援事業

4 災害時支援体制の充実

- 災害時に支援が必要な高齢者・障がい者を確実に支援するため、個別避難計画の作成や情報の管理・活用を進めるとともに、関係機関と連携した避難支援の仕組みづくりを進めます。
- 高齢者・障がい者の状況に応じた避難生活を支えるため、福祉避難所の受入環境や備蓄品の充実を図るとともに、実践的な訓練を通じて運営体制の強化を図ります。

【事業例】 福祉避難所対策事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値(年度)	目標値(年度)		方向
			R7	R13	R18	
❶	地域福祉コーディネーターの介入により支援につながった人数	人	10	40	60	↑
❷	福祉人材支援手当支給人数	人	ー	確認中	確認中	↑
❸	自立相談支援事業新規相談件数	件	927	1,200	1,800	↑
❹	個別避難計画の支援方法記載率	%	37.0	80	100	↑

政策6 高齢者福祉

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●高齢者が生涯にわたり健やかに暮らし、それぞれのいきがいを持ちながら心豊かに活躍できるまち。

●高齢者一人ひとりが、孤立することなく、地域とつながり自分らしく暮らし続けられるまち。

02 区の現状

・高齢者人口は増加を続けており、高齢化の進行に伴い、フレイルの進行や心身機能の低下などにより、要介護状態に至るリスクを抱える高齢者の増加が見込まれます。

・高齢者のみの世帯や単身高齢者が増加しており、地域とのつながりや外出機会が乏しい高齢者は、介護予防やフレイル予防に関する情報や支援につながりにくい状況があります。

・認知症高齢者数は増加傾向にあり、今後もさらなる増加が見込まれる一方で、相談先が分からないことや認知症への不安・抵抗感から、早期発見や適切な支援・治療につながらないケースがあります。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
75歳以上の高齢者数	人	22,932	23,747	24,430	24,876	ー
認知症高齢者数	人	確認中	確認中	確認中	確認中	ー
要介護認定者数	人	9,626	9,652	9,822	9,855	↓
悩みや不安を相談できる人がいない人の割合	%	7.2	ー	ー	6.6	↓

03 施策と概要

1 いきがいづくりの充実

- 高齢者が知識や経験を生かして地域で活躍できるよう、シルバー人材センターやシニアクラブ活動を支援し、社会参加や生きがいづくりを促進します。
- 高齢者が地域の中で役割やつながりを持ちながら暮らせるよう、多世代とのつながりや活動の機会を充実し、仲間づくりや地域との関わりを支援します。

【事業例】 シルバー人材センター助成事業　通いの場等活動支援事業

2 総合的な自立支援・介護予防・重度化防止の推進

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・福祉の関係機関等の連携を強化し、地域包括ケア体制の充実を図ります。
- 高齢者の自立した生活の継続と介護予防・重度化防止を推進するため、介護予防の取組の充実を図るとともに、多様な住まいの確保や地域移行支援など、生活を支える環境づくりを進めます。

【事業例】 介護予防把握事業　フレイル予防事業

3 介護サービスの充実

- 高齢者が必要な介護サービスを切れ目なく受けられるよう、医療・介護の連携強化を図るとともに、多様なニーズに対応したサービス提供体制の充実を進めます。
- 質の高い介護サービスを安定的に提供するため、介護施設等の計画的な整備や機能向上を図ります。

【事業例】 在宅療養推進事業　在宅医療・介護連携推進事業　高齢者在宅サービスセンター運営事業

4 認知症対策の推進

- 認知症の早期発見・早期対応と重度化防止を推進するため、相談・支援機能の強化と関係機関との連携促進を図ります。
- 認知症のある人とその家族を地域全体で支えるため、社会参加や交流機会の充実を図るとともに、認知症への理解促進や支援活動を担う人材の育成を進め、支えあいの地域づくりを推進します。

【事業例】 認知症予防・相談推進事業　認知症施策推進事業　認知症予防事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
1	「グループ活動に既に参加している」割合	%	2.6	8	12	↑
1	渋谷区シルバー人材センターの就労者数	人	777	910	945	↑
2	施策2に関する指標検討中					
3	定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス利用者数	件	確認中	確認中	確認中	↑
4	認知症に関する相談窓口を知っている高齢者の割合	%	確認中	確認中	確認中	↑
4	認知症サポーター養成講座新規受講者数	人	1,969	2,500	3,000	↑

政策7 障がい者(児)福祉

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●一人ひとりの個性が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく心豊かに暮らせるまち。
●誰もが社会活動に参加し、互いに理解し支え合いながら共生できるまち。

02 区の現状

- 障がいへの理解促進や交流の機会づくりを進め、ダイバーシティ＆インクルージョンの理念に基づくこころのバリアフリーの推進に取り組んでいます。
- 障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるよう、相談支援体制の充実や関係機関との連携強化を進めるとともに、利用しやすい施設やサービスの整備など、社会的障壁の解消に向けた取組が求められています。
- 障がいのある人へのアンケートでは、近所や地域との関わりが十分に進んでいないと感じる人が一定数存在しており、地域活動や社会参加の機会の充実を通じて、互いを尊重しながら地域でつながり、自分らしく暮らせる環境づくりが求められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
障がい分野の相談件数(区役所窓口)	件	確認中	確認中	確認中	確認中	―
障害者手帳保持者数	人	確認中	確認中	確認中	確認中	―
障がいがある人への配慮が進んでいないと考える区民の割合	%	30.6	―	―	28.2	↓

03 施策と概要

1 共生を支える環境づくり

- 障がいのある人が地域で安心して暮らし続けられるよう、障がいへの理解促進と多様性を受け入れる意識の醸成を図り、地域全体で支える環境づくりを進めます。
- 誰もが安全かつ快適に利用できるよう、利用しやすい施設やまちの環境整備を推進します。

【事業例】 障害者保健福祉計画推進事務　　障害者（児）施設助成事業

2 暮らしの充実と社会参加の推進

- 障がいのある人やその家族が安心して生活できるよう、各種サービスや相談支援体制の充実を推進します。
- 障がいのある人が地域の様々な場面で主体的に活動できるよう、移動支援の充実や手話をはじめとする意思疎通手段の利用促進を図り、社会参加しやすい環境づくりを進めます。
- 障がいのある人の活躍の場を広げるため、就労支援や関係機関・事業者との連携を推進するとともに、多様な主体との交流や協働の機会を充実します。

【事業例】 心身障害者（児）社会参加事業　　障害者地域生活支援事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	バリアフリー化推進事業助成件数	件	3	15	25	↑
❷	移動支援事業利用者延べ人数（通学・通所含む）	人	2,031	2,100	2,150	↑

C　健康・スポーツ分野

政策8　健康推進

01　政策の目的（目指すまちの姿）

●区民が心身の健康づくりに取り組み、生涯にわたり健康で自分らしく暮らせるまち。
●身近な医療やケアの体制が整い、いざというときも安心して暮らし続けられるまち。

02　区の現状

- 本区の健康寿命は、23区内でも上位の水準に位置し、生活習慣病保有率も比較的低い水準にあり、今後も良好な水準の維持が求められます。
- がん検診受診後の精密検査受診率は目標に達しておらず、疾病の早期発見・早期治療につなげるための取組が求められています。
- 健康は身体面だけでなくこころの健康も含めて捉える必要があり、こころの不調の予防や早期対応、自殺対策を含めた総合的な取組への関心が高まっています。
- 高齢化の進展や医療の高度化に伴い医療費の上昇が進む中、今後は客観的な証拠・根拠に基づき効果的・効率的な保健医療の提供がより重要となります。
- 新型コロナウイルス感染症の流行による危機的状況や、気候変動、グローバル化をはじめとする社会環境の変化を踏まえ、多様な健康危機への備えを一層強化していく必要があります。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
健康寿命（男性）	歳	83.4	83.62	83.52	ー	↑
健康寿命（女性）	歳	86.51	86.5	86.36	ー	↑
メタボリックシンドローム該当者の割合	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↓
がん死亡率（人口10万対）	人	225.2	180.9	確認中	確認中	↓

03 施策と概要

1 区民の主体的な健康づくりへの支援

・区民一人ひとりがライフステージに応じて主体的に健康づくりに取り組めるよう、心身両面の健康づくりを支える環境整備や情報提供、相談支援を図るとともに、妊娠期から子育て期まで切れ目のない母子保健サービスを提供します。

【事業例】 健康づくり講演会　女性の健康相談事業　母子保健事業　精神保健事業

2 生活習慣病予防の充実

・疾病の予防や早期発見・早期治療につなげるため、各種健診の受診促進や健康相談、保健指導を推進するとともに、適度な運動やバランスの取れた食生活、禁煙等の健康的な生活習慣の実践を支援します。

【事業例】 各種健診・検診事業

3 質の高い医療提供及びデータヘルス体制の確保

・KDBや各種健診データ等を活用した健康課題の分析を進め、区民の健康状態やニーズに応じた効果的かつ効率的な保健医療施策を推進するとともに、予防接種のデジタル化やPHRの活用環境整備、ICTを活用した相談・予約・申請体制の充実を図ります。

【事業例】 各種健診　糖尿病性腎症重症化予防事業

4 健康危機管理体制の強化

・区民の健康を守るため、未知の感染症のまん延防止や、食品衛生の向上・食中毒予防に加え、薬物乱用防止に関する普及啓発を推進します。

【事業例】 結核患者服薬治療支援（DOTS）事業　結核接触者調査および健康診断事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	施策1に関する指標検討中					
❷	特定健診受診率	%	39.8	48.0	48.0	↑
❸	施策3に関する指標検討中					
❹	施策4に関する指標検討中					

政策9 スポーツ振興

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●年齢や健康状態にかかわらず、多様な関わり方でスポーツに親しみながら心身ともに健康に暮らせるまち。

●スポーツを通じた交流や応援活動が広がり、関わる人のつながりと生きがいが育まれるまち。

02 区の現状

- 区民のスポーツ実施率は上昇傾向にあり、スポーツを親しむ区民が増えている一方で、年代や性別によってスポーツ実施状況に差が見られます。
- 区ゆかりのチームや国際大会等の観戦機会の提供を通じて、スポーツの楽しさや魅力に触れる機会を創出しています。こうした取り組みが、運動無関心層が「する」スポーツに関心を持つきっかけとなっています。
- スポーツを「支える」ボランティア活動への参加は限定的であり、スポーツ推進委員やスポーツボランティアの担い手の確保や育成、活動内容や参加方法に関する情報発信のさらなる充実が求められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
スポーツ実施率※	%	66.2	ー	ー	ー	↑
スポーツを直接観戦した区民の割合※	%	44.4	ー	ー	ー	↑
スポーツボランティア経験がある区民の割合※	%	17.6	ー	ー	ー	↑
地区体育会のイベントに参加する区民の割合	%	14.8	ー	ー	ー	↑

※ 渋谷区スポーツに関する意識調査(5年ごとに実施)

03 施策と概要

1 多様なニーズに応じたスポーツ機会の充実

- 子どもから高齢者まで、誰もが志向やレベルに応じてスポーツやパラスポーツに継続的に取り組めるよう、総合型地域スポーツクラブの活動を推進するとともに、スポーツに親しめる環境を整備します。

【事業例】 スポーツ振興事業　　スポーツ施設管理運営事業

2 「見る」スポーツを楽しむ環境の整備

- オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承し、スポーツやパラスポーツの観戦を通じて、スポーツへの関心やダイバーシティへの理解を深める機会を創出します。

【事業例】 スポーツ振興事業　　パラスポーツ・レガシー推進

3 「支える」スポーツ文化の醸成

- 地域スポーツを支える人材を確保するため、スポーツ推進委員を育成します。
- 運動・スポーツを「支える」人のウェルビーイングを育み、継続的に活動できるよう、スポーツボランティアの普及に取り組みます。

【事業例】 スポーツ推進委員運営

4 スポーツを通じた交流の推進

- 気軽に参加できるスポーツ活動や地区体育会、区にゆかりのあるチーム・選手との交流などを通じて、スポーツへの関心を高めるとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。

【事業例】 スポーツ振興事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	区営スポーツ施設利用者数	人	確認中	確認中	確認中	↑
❷	みるスポ！プロジェクト参加者数	人	確認中	確認中	確認中	↑
❸	スポーツボランティア登録者数	人	確認中	確認中	確認中	
❹	地区体育会イベント参加者数	人	確認中	確認中	確認中	↑

Ｄ　防災・安全・環境・エネルギー分野

政策10 防災対策

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●一人ひとりが日頃から防災意識を高め、災害時にも助け合えるまち。
●大規模災害にも強く、来街者を含む全ての人の安全が守られるまち。

02 区の現状

- 町会活動の担い手不足、住民同士のつながりの希薄化が進んでいます。こうした状況は、災害時の安否確認や避難支援など、地域で助け合う活動に支障を及ぼすことから、地域防災力の低下が懸念されます。
- 木造住宅密集地域では、不燃化が十分に進んでいない区域が残っており、地震などに伴う火災時には延焼のリスクがあります。
- 渋谷駅周辺などでは来街者や外国人観光客が増加しており、大規模災害時には、広域からの来訪者を含む多数の帰宅困難者の発生が想定されることから、迅速かつ的確な災害情報の発信が求められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
災害に対して備えている区民の割合	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
区内の防災訓練の回数	回	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
木造住宅密集地域の不燃化率	%	68.2	69.1	確認中	確認中	↑

03 施策と概要

1 災害に強いまちづくりと防災拠点の充実

- 災害発生時の迅速な初動対応と災害死・災害関連死の防止を図るため、本部要員の確保・育成や災害対策本部訓練を実施するとともに、関係所管と連携して対策を進めます。
- 住民や来街者へ、確実に情報を提供するため、防災ポータル・防災アプリ・SNS等の活用を推進します。
- 年齢や性別等に関わらず、誰もが安全・安心に避難できる避難所を整備するため、Wi-Fi環境や備蓄品の充実を図るとともに、他自治体との連携による避難先の確保に取り組みます。
- 木造住宅密集地域の防災性を高めるため、建築物の不燃化・倒壊防止への支援や主要生活道路の拡幅整備、地域との協働によるまちづくりを進めます。

【事業例】 災害対策本部整備事業　居住環境整備促進事業　避難所・備蓄品等整備事業

2 共助による地域防災力の強化

- 住民や各団体の自発的な防災行動と地域防災活動の活性化を促すため、防災キャラバンや学校・マンション・企業など個別の防災教育・啓発を実施するとともに、自主防災組織・避難所運営委員会への啓発や活動の支援を行います。

【事業例】 防災訓練事業　自主防災組織育成事業

3 帰宅困難者対策の推進

- 帰宅困難者や来街者の安全を確保するため、一時滞在施設の拡充、帰宅困難者対策協議会による官民連携の強化、多様な人々への迅速で分かりやすい情報提供、地域特性に応じた安全対策に取り組みます。

【事業例】 帰宅困難者対策事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
1	主要生活道路沿道の用地買収件数	件	確認中	確認中	確認中	↑
2	総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」参加者数	人	12,603	確認中	確認中	↑
2	避難所の収容人数	人	確認中	確認中	確認中	↑
3	帰宅困難者受入人数	人	44,221	確認中	確認中	↑

政策11 防犯・安全対策

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●産官学民が一体となって、防犯に取り組むまち。
●犯罪に巻き込まれず、誰もが安全・安心に暮らし、訪れることができるまち。

02 区の現状

- 区内の刑法犯認知件数は増加傾向にあり、万引きや自転車盗を中心とする非侵入窃盗犯が多くを占めています。
- 特殊詐欺等犯罪の手法が多様化しており、被害者は高齢者をはじめ、中高年層や若年層にも広がっています。また、意図せず加害者になってしまうリスクも高まっています。
- 公共の場における客引き行為や悪質なスカウト行為等による被害を防止するため、啓発活動や関係機関と連携した情報発信に取り組んでいます。
- 地域団体、学校、警察及び金融機関等と連携した見守り活動を継続して実施し、日常的な声掛けや気配りを通じた犯罪の未然防止や地域の安全・安心の確保につながっています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
渋まちの安全・安心確保が充実していると答えた人の割合※	%	―	―	61.7	68.5	↑
区内の犯罪認知件数(暦年)	件	3,024	3,388	3,849	4,272	↓
公共の場所における客引き行為等の防止に関する条例に基づく指導件数	件	確認中	確認中	確認中	確認中	↓

※ 渋谷区区民意識調査

03 施策と概要

1 防犯体制の強化

- 犯罪を抑止し、安全・安心な地域環境を確保するため、犯罪発生状況を踏まえた優先整備地区への防犯カメラの設置、公園の緊急通報システムの周知に取り組みます。
- 特殊詐欺等の多様化する犯罪被害を防止するため、被害実態の分析に基づく効果的な啓発・防犯対策を実施するとともに、地域・金融機関等と連携した多層的な対策に取り組みます。
- 国際化の進展に伴う治安上の課題に対応するため、各種犯罪の発生動向や背景を分析し、実態に即した効果的な防犯対策に取り組みます。
- 犯罪の未然防止と地域の安全・安心の確保を図るため、青色防犯灯付きパトロール車（ハチパト）による巡回活動を推進するとともに、地域と連携した見守り体制の強化に取り組みます。

【事業例】 安全対策推進事業

2 公共の場における悪質行為等の防止

- 客引きや悪質なスカウト行為等が無い安全・安心な街を実現するため、警察や商店会等防犯に係る関係団体と連携し、飲食店等やその従業員に対して啓発・指導に取り組みます。

【事業例】 安全対策推進事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	ハチパト迷惑行為指導件数	件	確認中	確認中	確認中	↑
❷	渋谷区環境浄化推進認定店舗数	店	確認中	確認中	確認中	↑

政策12 環境美化・みどりのまちづくり

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●生活環境や良好な景観が守られ、誰もが心地よく快適に暮らせるまち。
●みどりや生物多様性が保全され、人々がみどりの豊かさを実感できるまち。

02 区の現状

- 多くの来街者が昼夜を問わずに往来する都市であり、路上喫煙や吸い殻の散乱等が問題の1つとなっています。
- 渋谷駅周辺をはじめ、原宿、恵比寿、代官山など、多くの若者が集まる繁華街という地域特性から、各地に多くの落書きが存在し課題となっています。
- 商業・業務機能が高度に集積し、国内外から多くの来街者が訪れるため、建築工事や事業活動等に起因する騒音、振動、悪臭等に関する公害苦情が継続して発生しています。
- 「渋谷区みどりの確保に関する条例」に基づく緑化計画制度を通して、一定規模以上の敷地を対象に、屋上緑化や壁面緑化、緑陰の形成につながる樹木の植栽等を推進しています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
ポイ捨てごみ量	個	12.8	10.4	46.6	41.5	↓
落書き通報件数	件	610	565	649		↓
路上喫煙率	%	―	―	0.50	0.45	↓
二酸化窒素濃度	ppm	確認中	確認中	0.022	0.021	↓
緑被率	%	22.8	22.8	22.8	22.8	↑

※特定エリアの歩道上における100mあたりの平均ポイ捨てごみ量

03 施策と概要

1 身近な環境問題への対応の強化

- 「きれいなまち渋谷をみんなでつくる」の理念のもと、区民、事業者および区が一体となって環境美化を推進します。
- 公害の未然防止と生活環境の保全のため、騒音、振動、悪臭等に係る公害相談受付や、事業者への指導・助言に取り組みます。

【事業例】 美化推進事業　公害対策事業

2 みどりの保全・創出

- 良好な景観の形成や生きものの生息・生育環境等を健全な状態で維持・保全していくため、現存するみどりの適切な維持管理と保全を進めます。
- 生物多様性の確保や気候変動対策を推進するとともに、みどりの豊かさを実感できる環境を形成するため、身近で質の高いみどりの創出とみどりのネットワーク形成を推進します。
- 区民、事業者、学校及び地域団体などとの連携により、みどりに関する活動に参加する場や機会の充実を図ります。

【事業例】 緑化推進事業　公園維持管理事業　玉川上水旧水路緑道再整備事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	落書き除去面積	確認中	確認中	確認中	確認中	―
❶	公害苦情処理率	%	94	96	98	↑
❷	施策2に関する指標検討中					

政策13 持続可能な都市の実現

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●環境に配慮した暮らしや活動が広がり、次世代へ良好な地球環境を引き継ぐまち。
●資源循環と脱炭素化が進み、持続可能な社会が実現するまち。

02 区の現状

- ごみの発生抑制を最優先課題としており、区民・事業者・区が協働しながら、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進及び食品ロス削減に取り組むことで、資源循環の強化と焼却処理量・最終処分量の削減を図っています。
- 3Rの中で最も重要なリデュースの取組として、「しぶや・もったいないマーケット」の開催や小学生向け啓発冊子の作成・配布などを通じ、食品ロス削減を中心とした意識啓発を推進しています。
- 一般廃棄物の排出状況では、家庭ごみは減少傾向が続いている一方、全体の7割以上を占めると推測される事業系ごみは、新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な減少を経て、再び増加傾向にあります。
- 事業系ごみ対策として、条例に基づき延床面積3,000㎡以上の事業用建築物の所有者を対象に、立入検査や講習会を実施し、ごみの減量及び再利用の促進に向けた指導を行っています。
- 2030(令和12)年度までに温室効果ガス排出量を46%削減(2013年度比)することを目標としており、今後も継続した削減が求められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
家庭系ごみの年間総排出量	t	33,811	32,317	31,433	31,435	↓
事業系ごみの年間総排出量	t	67,468	68,342	68,801	68,689	↓
区内温室効果ガス排出量	千t-CO_2	1,803	1,714	―	―	↓

03 施策と概要

1 循環型社会の形成（3Rの推進）

・資源循環型社会の実現に向けて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）と食品ロス削減の取組を推進するとともに、区民や事業者等と連携した普及啓発や情報発信を進めます。

【事業例】 ごみ減量・リサイクル推進啓発事業

2 廃棄物の適正排出と安定収集の推進

・ごみの適正処理の基本である分別の徹底を図るため、区民や事業者への排出ルールの普及啓発を推進するとともに、ごみの適正かつ円滑な収集や高齢化の進展など社会情勢の変化に対応した収集体制の充実を図ります。

【事業例】 ごみ収集・資源回収事業

3 都市の脱炭素化と気候変動への適応の推進

・日常生活や事業活動、建物やまちの脱炭素化を推進するため、省エネルギー行動の促進や再生可能エネルギーの利用拡大、住宅・建築物の省エネルギー性能の向上、ZEH・ZEBの普及等を進めるとともに、都市型水害や暑熱対策など気候変動への適応を推進します。

【事業例】 環境基本計画推進事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	家庭ごみの排出量（1人1日当たり）	g	371	372	270	−
❶	事業系ごみの排出量（1人1日当たり）	g	459	439	354	−
❷	施策2に関する指標を検討中					
❸	区有施設の温室効果ガス排出量	t-CO_2	20,286	10,604（～R12年度）	※	↓

※R13年度以降の目標値は、次期地球温暖化対策実行計画で設定予定

Ｅ　空間とコミュニティのデザイン分野

政策14 市街地整備・景観デザイン

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●渋谷駅周辺地域をはじめとする各地域が、それぞれの特色や個性を生かして発展し、多様な人々に選ばれるまち。

●産官学民の協働により、安全・安心で利便性が高い魅力ある都市空間が形成されたまち。

02 区の現状

・渋谷駅周辺では大規模な再開発が進む一方、地上・地下・デッキ階が複雑に交錯し、目的地や経路が分かりにくい状況が見られます。また、区民や来街者、事業者にとって整備の進捗やまち全体の変化を把握しにくい状況が続いています。

・区内の各地域にはそれぞれ特色ある資源や魅力がありますが、それらが十分には知られておらず、来訪や回遊につながっていない面があります。一方で、ササハタハツエリアでは、産官学民が連携した共創まちづくりプラットフォームであるササハタハツまちラボにて、地域の特色を生かした住民主体のまちづくりが進められています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
渋谷駅の乗降客数	人	確認中	確認中	確認中	確認中	ー
渋谷駅周辺の歩行者交通量	人	確認中	確認中	確認中	確認中	ー

03 施策と概要

1 官民連携による渋谷駅周辺の魅力向上

- アーバン・コアや歩行者デッキ等を整備し、駅周辺と渋谷川沿線を結ぶ安全で快適な歩行者ネットワークと回遊・滞在空間を形成します。
- バスターミナル機能を拡充し、広域交通への対応、交通結節機能及び利用者の利便性を高めます。
- 大規模開発と個性ある街並みの調和を図るとともに、官民連携によるエリアマネジメントに取り組みます。また、大規模開発により創出された広場や歩行者空間等と公共空間を一体的に活用し、回遊性や滞在性の向上を図ることで、持続的で魅力ある都市空間を形成します。

【事業例】 渋谷駅中心五街区整備事業　渋谷駅周辺整備調整事業　河川維持事業　公園維持管理事業

2 各地域の特性を生かしたまちづくりの推進

- 区民、地域団体、事業者、大学、行政等が相互に連携・協力し、それぞれの知識や経験、資源を生かした「協働型のまちづくり」を推進します。
- 公共施設等の更新を契機に、水道道路沿道に必要な機能や拠点の配置を具体化し、地域の回遊性やにぎわいの向上を図ります。
- 地域の特性を生かした公共空間の利活用を進め、多様な主体が集い交流できる場を創出することで、地域コミュニティの活動拠点の形成や地域の魅力向上を図ります。

【事業例】 まちづくり推進事業

3 まちづくりに係る情報発信の充実

- 「SHIBUYA CREATIVE JUNCTION」を活用し、都市空間情報やイベント情報を一元的に発信することで、利用可能な空間を探しやすくし、公共空間の利活用を促進します。

【事業例】 統合型地理情報システム事業　　スマートシティ推進事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	施策1に関する指標（検討中）					
❷	認定まちづくり協議会の活動回数	回	確認中	確認中	確認中	↑
❸	SHIBUYA CREATIVE JUNCTIONサイトPV数	回	確認中	確認中	確認中	↑

政策15 地域コミュニティの活性化

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●交流や地域活動を通じて地域とのつながりが広がり、地域活動の担い手が育つまち。
●多様なライフスタイルに応じた良好な住環境のもと、住みたい・住み続けたいと思えるまち。

02 区の現状

- 地域コミュニティの中心的な役割を担う町会等では、新規加入者の減少により、活動の担い手が固定化し、既存の構成員に過度な負担が集中している傾向があります。
- 公園やコミュニティ農園を活用した新たな交流の場が生まれている一方、ライフスタイルや価値観の多様化により、住民同士が交流する機会を持ちにくく、地域とのつながりを築けていない人も増加しています。
- 築30年以上経過した住宅ストックが住宅総戸数の3割を占めており、今後住宅ストックの急速な老朽化が懸念される中、区の主要な居住形態であるマンションでは、建物の老朽化に加え管理組合の担い手不足など、適切な維持管理や管理組合の運営に課題を抱えるものもあります。
- 管理が不十分な空家等の発生は、防犯・防災、衛生、景観などの面で、周辺の生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあります。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
地域や人とのつながりを感じられると答えた人の割合※	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
これからも区に住み続けたいと思う人の割合※	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
管理不全の兆候のあるマンションの割合	%	19.9	19.7	16.9	16	↓
管理が不十分な空家等の件数	件	―	―	―	77	↓

※ 渋谷区区民意識調査

03 施策と概要

1 多様な人々の交流を育む場づくり

- 多世代が憩い交流できる公園や緑道などの公共空間を整備・活用するとともに、自主管理花壇やコミュニティ菜園等を通じて、誰もが地域活動に参加しやすい交流の場を創出します。

【事業例】 安全対策推進事業　公園新設改良事業　公園維持管理事業　玉川上水旧水路緑道再整備事業

2 人材の育成やイベントの創出

- 町会活動への助成を通じて、学生やPTAなどの若い世代をはじめ、多様な世代の参加を促し、地域交流を支える担い手の育成と交流機会の充実に取り組みます。

【事業例】 町会助成事業

3 住環境の整備

- マンションの適切な維持管理や再生・建替え、耐震化に向け、管理組合への相談・専門家派遣や耐震診断・改修等の支援を行います。
- 空家等の発生抑制と適正管理を地域住民や専門家団体等と連携して進め、安全で良好な住環境の維持・形成に取り組みます。

【事業例】 マンション管理事業　建築物の耐震促進補助事業　空家対策事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	自主管理花壇団体数	団体	41	70	100	↑
❷	おとなりサンデーイベント開催件数	回	146	350	500	↑
❸	長期修繕計画作成等費用助成件数	件	3	25	50	↑
❸	空家等適正管理支援事業助成件数	件	2	25	50	↑

政策16 道路・交通の整備

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●誰もが利用しやすい交通環境が整い、快適に移動できるまち。
●人中心の居心地がよい空間が広がり、歩きたくなる・滞在したくなるまち。

02 区の現状

・区内では自転車が主要な移動手段として定着し、来街者の増加も重なって自転車関与事故が全交通事故の約4割を占めるなど高水準で推移しており、渋谷駅周辺を中心に歩行者・自転車・自動車が同一空間で錯綜することが主な要因となっています。
・通行区間の不明確さやルールへの理解不足が事故の一因となっているほか、短距離移動手段として広く定着し利便性が高まるコミュニティサイクル等においても、安全利用に向けたマナーやルールの徹底が課題となっています。
・ハチ公バスの乗客数は、令和4年度には約129万人まで減少したが、その後は回復傾向に転じ、令和7年度は約178万人となっており、特に外国人の利用者が増加しています。
・大山街道や西参道等で道路空間の再配分を進めているものの、区内全体ではウォーカブルな空間の形成は限定的であり、人中心の居心地の良い空間の創出が課題となっています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
自転車の事故関与件数	件	335	336	279	280	↓
ハチ公バスの利用者数	人	1,285,813	1,627,923	1,742,859	1,775,400	→
デマンド交通の利用者数	人	ー	ー	ー	12,934	↑

03 施策と概要

1 安全で快適な道路空間の整備

- 歩行者・自転車・自動車が安全・安心・快適に通行できる環境を創出するため、ハード・ソフト両面から自転車通行環境の整備を進めます。
- 交通管理者や事業者等と連携し、交通安全教育を継続的に実施することで、自転車利用者等の交通安全意識の向上を図ります。
- 誰もが安全・安心・快適に通行できる道路空間の確保に向け、交通事故データや利用実態の分析に基づく危険箇所の改善や、無電柱化と併せた道路空間の再編等を推進します。

【事業例】 交通安全対策事業　交通安全施設整備事業　道路維持事業　都市計画道路整備事業

2 交通の利便性の確保

- ラストワンマイルの移動需要を補完するため、区内の地域特性を踏まえたコミュニティサイクル（自転車シェアリング）等の運用方法を検討し、適切な利活用を推進します。
- ハチ公バスを含む区内の公共交通は、運賃やダイヤ再編、重複区間の解消等により、地域内の総合的な最適化を推進し、持続可能な運行形態を目指します。
- 実証実験中のデマンド交通の更なる活用を推進し、利用者ニーズを捉えた移動手段を充実させることで、区内全域の交通利便性の更なる向上を目指します。

【事業例】 コミュニティバス運行事業　スムーズ渋谷推進事業

3 ウォーカブルな道路空間の整備

- 地域の特性や利用実態に応じて道路空間の再編を進め、歩行者の安全性・快適性の向上と回遊性の創出を図るとともに、歩いて楽しめるウォーカブルな道路空間の形成を推進します。

【事業例】 公共空間利活用推進事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	自転車通行環境の整備延長	km	21.58	46.58 （～R12年度）	※	↑
❷	コミュニティサイクル貸出・返却ポート数	箇所	74	92	107	↑
❸	道路空間再編の整備延長	km	確認中	確認中	確認中	

※R13年度以降の目標値は、次期渋谷区自転車通行環境整備計画で設定予定

Ｆ　文化・エンタテイメント分野

政策17 渋谷カルチャーの発展・国際発信

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●多彩な文化と人々の交流から、世界を魅了する新たなカルチャーやエンタテイメントが創造され続けるまち。

02 区の現状

- 渋谷は、ファッション、音楽、アートなど多彩な文化を国内外に発信してきた都市であり、ライブハウスや劇場、映画館、ギャラリー等の文化資源が集積しています。一方で、大規模な再開発や都市機能の高度化を背景に、文化的表現や実験的な取組が生まれる場、担い手同士が交流する機会が減少しています。
- 若手アーティストやクリエイターを取り巻く環境が変化する中、渋谷発の文化の蓄積・循環や次世代の担い手育成が重要となっています。また、文化イベントや取組が増加する一方、それらを渋谷全体の魅力として発信する機会は限定的となっています。
- 公共空間やストリートを活用した表現・交流の場は限られており、渋谷らしい文化を日常的に体験・発信する機会の確保が求められています。また、来街者の回遊や滞在が一部エリアに集中し、文化施設やイベントの効果が地域全体へ広がりにくい状況も見られます。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
区内で開催されたファッション、音楽、アートなどのイベント数※	件	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
クリエイティブ産業店舗数	店	確認中	確認中	確認中	確認中	↑

※ 渋谷区主催、共催、後援のイベント数

03 施策と概要

1 渋谷カルチャーの発展・発信

- 新たな文化活動の場を創出し、文化施策の裾野拡大と発信力の向上を図るため、多様な分野への活動支援や民間企業・NPO等との連携イベントを推進します。
- 文化を発信する機会を充実させるため、SHIBUYA CREATIVE JUNCTION等による情報発信や公共空間と文化施設等の融合を図ります。

【事業例】 文化芸術活動推進費

2 多様な人々との連携によるエンタテイメントシティの魅力向上

- 渋谷の国際的な認知度と来訪者の満足度を高め、国内外の多様な人々の参加・交流を促進するため、「DIG SHIBUYA」の展開や協定都市・友好都市等のクリエイティブコミュニティとの連携を進めます。
- 渋谷と世界を文化でつなぎ、互いの魅力をそれぞれの都市で発信・交流促進することで、国際都市としての価値の向上を図ります。

【事業例】 公共空間利活用推進事業　国際・都市交流事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	広報発信関連の指標（検討中）					
❷	区内で開催されたファッション、音楽、アートなどのイベント参加者数※	人	確認中	確認中	確認中	↑

※ 渋谷区主催、共催、後援のイベント参加者数

政策18 文化・芸術の振興と交流の推進

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●誰もが文化・芸術に親しみ、その魅力を感じることができるまち。
●歴史や文化を通じた交流が広がり、多様な人々がつながるまち。

02 区の現状

- 区民が日常的に文化芸術に親しみ、自ら参加する機会は必ずしも十分ではない状況にあります。一方で、区内には渋谷公会堂や文化総合センター大和田（さくらホール・伝承ホール）、松濤美術館、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館など、官民を含め多様な文化芸術施設が集積しています。
- 区内には多様な文化遺産や地域文化がありますが、都市化や世代交代が進む中、区民が身近に触れる機会が限られ、その価値や魅力が十分に知られていないものもあります。また、担い手の減少などにより、次世代への継承が難しくなっているものもあります。
- 外国人住民の増加や多国籍化が進み、多様な文化的背景を持つ人々が日常的に交わる都市となっています。一方で、国際交流や多文化共生に係るイベントや取組は実施されているものの、継続的な参加や関係性の構築につながる機会は限定的な状況にあります。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしいと感じている人の割合	%	62.5	60.2	54.0	58.1	↑
区指定文化財の件数	件	47	47	48	48	―

03 施策と概要

1 文化・芸術活動の振興

- 区民が身近に文化芸術や伝統文化に親しみ、主体的に参加できるよう、区内文化施設や文化団体と連携した多様な事業を継続します。
- 文化財調査と文化財保護審議会での審議を踏まえ、新たな文化財の指定を進め、地域の文化遺産の保全・継承に取り組みます。

【事業例】 文化芸術活動推進事業　心身障害者（児）社会参加事業

2 文化を通じた地域交流・国際交流の推進

- くみんの広場のほか、渋谷芸術祭・音楽祭、渋谷おはら祭等の開催を通じて、国内外のアーティストや区民など多様な人々が文化芸術を介して交流する機会を創出し、地域交流・国際交流に取り組みます。
- 継続的な国内及び国際交流の充実を図るため、国内協定締結都市のほか姉妹都市・友好都市をはじめとする海外都市や区内大使館等との連携を深めます。

【事業例】 文化芸術活動推進事業　国際都市交流事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	松濤美術館来館者数	人	確認中	確認中	確認中	↑
❶	白根記念渋谷区郷土博物館・文学館来館者数	人	確認中	確認中	確認中	↑
❶	旧朝倉家住宅入館者数	人	68,320	69,000	70,000	↑
❷	くみんの広場の出店団体数	団体	210	確認中	確認中	↑
❷	都市交流関連の指標（検討中）					

Ｇ　産業振興分野

政策19 イノベーションの創出と経営・就労支援

01 政策の目的（目指すまちの姿）

●新たな価値やイノベーションが生まれるまち。
●地域に根ざした中小企業や商店街が活力とにぎわいを生み出すまち。
●誰もが自分らしい働き方や仕事に出会い、活躍できるまち。

02 区の現状

- スタートアップ支援を通じたイノベーション創出を推進している一方で、その成果や価値を区民が身近に感じられる環境づくりが課題となっています。
- 商店街や中小企業では人手不足や物価高騰、後継者不足などの問題を抱えています。
- グローバル化による外国人労働者の増加や、技術革新によるAIの普及などを背景に、就業者に求められる知識や技能は高度化しています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値（年度）				方向
		R4	R5	R6	R7	
区内での開業率	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
区内の総法人登録数	件	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
ハチペイ決済総額（年間）	円	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
就職相談件数	件	756	942	1,079	974	―

03 施策と概要

1 創業・新規事業展開への支援

- 創業支援の充実や創業者コミュニティの形成、海外起業家の誘致を進め、多様な主体が活躍できるスタートアップ・エコシステムの形成を進めます。
- スタートアップ等が有する先端技術やサービスを活用した実証実験を促進するとともに、区民が新たな技術やサービスに触れ、社会課題や行政課題の解決、新たな文化・産業の創出に参画できる環境づくりを進めます。

【事業例】 グローバル拠点都市推進事業　創業支援事業

2 地域経済の活性化

- 商店街のにぎわい創出と地域経済の活性化を図るため、イベント実施や情報発信などの取組を支援するとともに、人手不足や後継者不足等への対応や、施設整備や環境改善をはじめとした活動基盤の強化を支援します。
- 地域に根ざした中小企業の経営基盤の強化による経営の安定化と発展を図るため、中小企業事業資金融資や経営相談・経営指導などの支援や、人材確保や福利厚生の充実に向けた支援を進めます。
- デジタル地域通貨「ハチペイ」を活用して区内消費の促進を図るとともに、購買データ等の活用により事業者の経営力向上を支援し、地域経済の活性化につなげます。

【事業例】 商店街活動助成事業　中小企業事業資金融資事業　地域経済活性化事業

3 就労支援の推進

- 若者、女性、中高年層など多様な人材が、それぞれの状況や希望に応じて働くことができるよう、就労相談やキャリア形成支援、就業機会の確保に向けた取組を進めます。

【事業例】 就労支援事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	創業セミナー参加者	人	149	200	250	↑
❷	融資あっせん件数	件	1,232	1,500	1,500	―
❷	ハチペイアプリダウンロード数	件	確認中	確認中	確認中	↑
❸	相談に対する就業率（就業決定者数/離職者相談数）	%	23.82	30.00	40.00	↑

政策20 消費生活の支援

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●子どもから高齢者まで全ての区民が、安心して消費生活を送ることができるまち。

02 区の現状

・ネット通販の定期購入トラブルや暗号資産等の投資トラブル、SNSを起点とした詐欺や悪質広告など、消費者トラブルは多様化・複雑化しており、被害者は高齢者に限らず、若年層など幅広い世代に広がっています。

・高齢者の消費者被害は深刻化しており、特殊詐欺、押し売りなどの被害が発生しています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
消費相談件数	件	1,916	1,867	1,833	1,855	↓

03 施策と概要

1 消費者トラブルの未然防止・普及啓発

・多様化・複雑化する消費者トラブルに対応し、区民が自らトラブルを回避できるよう、消費生活に関する啓発講座や情報発信の充実を図ります。

【事業例】 消費者及び消費者団体対策事業

2 消費生活に係る相談体制の充実

・多様化・複雑化する消費者トラブルに適切に対応し、安心して消費生活を送れるよう、相談体制の充実を図ります。

【事業例】 商工会館及び消費者センター運営事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	消費生活講座参加者数	人	100	200	300	↑
❶	消費者啓発出前講座参加者数	人	150	300	450	↑
❷	消費者相談の満足度	%	―	80	100	↑

政策21 観光振興

01 政策の目的(目指すまちの姿)

●観光客と地域が共存し、良好な生活環境と観光都市としての魅力が両立するまち。
●国内外から訪れる人々が渋谷の多様な魅力を満喫し、愛着を感じることができるまち。

02 区の現状

- コロナ禍からの回復や円安等を背景に、国内外からの観光客が増加しており、観光マナーの低下や過度の混雑等が生じています。
- 違法民泊の抑制に取り組んでいるものの、苦情件数は増加しており、地域との共生が課題となっています。
- 渋谷の魅力や観光情報を海外に向けてより効果的に発信する必要があり、多言語対応やICTを活用した情報提供を一層推進する必要があります。
- 観光客の回遊性や滞在時間の向上につながる新たな地域観光資源の掘り起こしが必要となっています。





状態を表す主な指標例

指標名	単位	実績値(年度)				方向
		R4	R5	R6	R7	
観光客の満足度	%	確認中	確認中	確認中	確認中	↑
観光来訪者数	万人	198.5	233.9	251.0	283.7	ー
民泊届出住宅に関する苦情件数	件	確認中	確認中	337	546	↓

03 施策と概要

1 観光客と地域が共存した受入環境の整備

- 観光客と地域住民がともに快適に過ごせるよう、観光マナーの周知や公共空間の混雑への対策を進めます。
- 宿泊施設の適正な運営に向けた指導や違法民泊への対応を通じて、地域の生活環境と調和した受入環境の整備に取り組みます。

【事業例】 観光振興事業　 環境衛生事業

2 観光に係る情報発信の充実

- 国内外の観光客が渋谷の多様な魅力に触れ、各地域を巡りながら滞在を楽しめるよう、多言語対応やICTを活用した分かりやすい観光情報の発信を進めます。
- 地域や観光関連団体等と連携し、新たな観光資源の掘り起こしと魅力の発信に取り組みます。

【事業例】 観光振興事業

成果指標例

施策	指標名	単位	実績値（年度）	目標値（年度）		方向
			R7	R13	R18	
❶	違法民泊施設数（無許可・未届）	施設	44	確認中	確認中	↓
❷	渋谷区観光協会HPアクセス数	回	76,649	確認中	確認中	↑